

2016年度

慶應義塾大学大学院入試問題
経済学研究科（修士課程：一般・留学生対象）

2015年9月10日 実施

科目名	経済学 (日本語)	受験番号		氏名	
-----	--------------	------	--	----	--

注意事項

1. 問題用紙は表紙を含め8枚です。
2. 問題は7題出題されています。そのうち、2題を選択の上、解答して下さい。答案用紙は1題につき1枚使用し、解答欄の左上に選択した問題の番号（1，2，…）を必ず記入して下さい。
3. 1枚の答案用紙に、2題以上解答した場合は、初めの解答のみ有効とし、以降の解答については採点の対象としませんので注意して下さい。
4. 問題用紙は試験終了後回収しませんが、必ず表紙に受験番号と氏名を記入して下さい。

問題 1.

個人が I 人おり、私的財が L 種類ある純粋交換経済を考える ($I \geq 3$, $L \geq 3$)。各個人 $i=1, \dots, I$ の初期保有ベクトルを $\omega_i = (\omega_{i1}, \omega_{i2}, \dots, \omega_{iL})$ で表す。

(1) 競争均衡配分を定義せよ。

(2) パレート効率性を定義せよ。

(3) パレート効率性を満たすが競争均衡配分ではない配分を説明せよ。

(4) 厚生経済学の第一基本定理を証明せよ。その際、選好にどのような仮定を置くか明記すること。

問題 2.

一期と二期の二期間継続する小国開放経済において、家計が、消費(C)から得られる経済厚生

$$\log(C_1) + \log(C_2)$$

を、予算制約式

$$C_1 + B_1 = \bar{Q}_1,$$

$$C_2 + B_2 = (1 + \bar{r})B_1 + \bar{Q}_2,$$

の下で最大化する問題を考える。ここで、 r 、 Q 、 B はそれぞれ、世界金利、生産、対外純資産を示す。上にバーの付いた変数は、外生ないし先決変数を示す。下付き添字は期を示す。

以下の問いに答えなさい。

1. この小国開放経済における異時点間の予算制約式を求めなさい。
2. この小国開放経済の（全ての内生変数の）解を求めなさい。さらに、どのようにして解が決まるかをグラフでも示しなさい。
3. 一期目の経常収支を求めなさい。
4. 3で得られた解を基に、一期目の経常収支が、(a) 生産への一時的なショック (\bar{Q}_1 のみ上昇)、(b) 生産への恒久的なショック (\bar{Q}_1 、 \bar{Q}_2 ともに上昇)に対し、どのように異なった反応をするかを説明しなさい。
5. 3で得られた解を基に、世界金利の上昇に対し、経常収支がどのように反応するかを説明しなさい。これをグラフでも示しなさい。
6. (金融取引が禁止されるような) 資本規制が課されたと想定しよう。その場合の解を求めなさい。
7. 資本規制の下では、経済厚生が、これがない場合と比べて、少なくとも同じか小さくなることをグラフを用いて、説明しなさい。

問題 3.

マルクス経済学の方法にもとづき、以下の問いの両方に答えなさい。

- (1) 競争段階の資本主義発展のメカニズムについて述べなさい。
- (2) 独占段階の資本主義の特徴について、競争段階の資本主義と比較しながら述べなさい。

問題 4. 回帰モデル

$$Y_i = A + BX_i + CP_i$$

で Y_i は砂糖消費需要の対数、 X_i は所得の対数、 P_i は砂糖価格の対数、対数は自然対数とする。あなたが米国、イギリス、イタリア、日本のデータを持っていて、各国のデータには 22 の家計のデータがあると想像しなさい。あなたが下記の表の回帰分析結果を、最小二乗法で得たとする。真のパラメータ、 B と C の最小二乗法推定値が、それぞれ b と c とし、それらの t 値を $t(b)$, $t(c)$ とする。

	U.S.A.	U.K.	Italy	Japan
b	0.02	0.05	0.12	0.07
$t(b)$	2.079	2.084	2.087	2.099
c	0.35	-0.89	-1.09	0.27
$t(c)$	1.731	1.809	2.100	2.089

t 分布の分布関数を $F_d(z)$ とし、下記の表が、 $F_d(z)=0.95$ と $F_d(z)=0.975$ となるような z の値を $d=18, 19, 20, 21, 22$ について与えているとする。

	18	19	20	21	22
0.950	1.734	1.729	1.725	1.721	1.717
0.975	2.101	2.093	2.086	2.080	2.074

下記の質問に、誤差項が正規分布に従うことを含めて、古典的線形回帰モデルの仮定が全て成立しているものとして答えよ。

- (a) 米国の傾きの推定値 b を解釈せよ。
- (b) 両側 t 検定を用い、帰無仮説 $B=0$ を 5% の有意水準で各国について検定せよ。
- (c) 片側 t 検定を用いて、帰無仮説 $C=0$ を検定するとき、 $H_A: C>0$ と $H_A: C<0$ のどちらの対立仮説が各国で適切であろうか。説明せよ。
- (d) 前問の片側検定について、5% の有意水準で各国について帰無仮説を棄却できるかどうか答えよ。
- (d) 最小二乗法の 3 つの望ましい性質を挙げよ。

問題 5.

以下の2つの設問のうち、どちらか1つを選択して回答しなさい。

A. 混雑は、なぜ、典型的な外部不経済であるかを説明しなさい。混雑の対処法のひとつにピグー税がある。ピグー税とは何かを説明しなさい。また、道路混雑に対するピグー税の具体的な政策事例を1つ以上説明しなさい。

B. 社会保障における現物給付の存在理由について説明しなさい。

問題 6. つぎのどちらかを選んで回答しなさい。

(1) ケインズ『一般理論』の歴史的意義について議論しなさい。

(2) 数理的分析がどのようにして経済学のなかに導入されたかについて議論しなさい。

問題7.

ある地域または国を対象として、政府（もしくは統治者）の経済政策および地域有力者の経済活動が、そこでの産業の発展に果たした役割について、具体的な歴史的事実に基づき、経済史の視点から論じなさい。